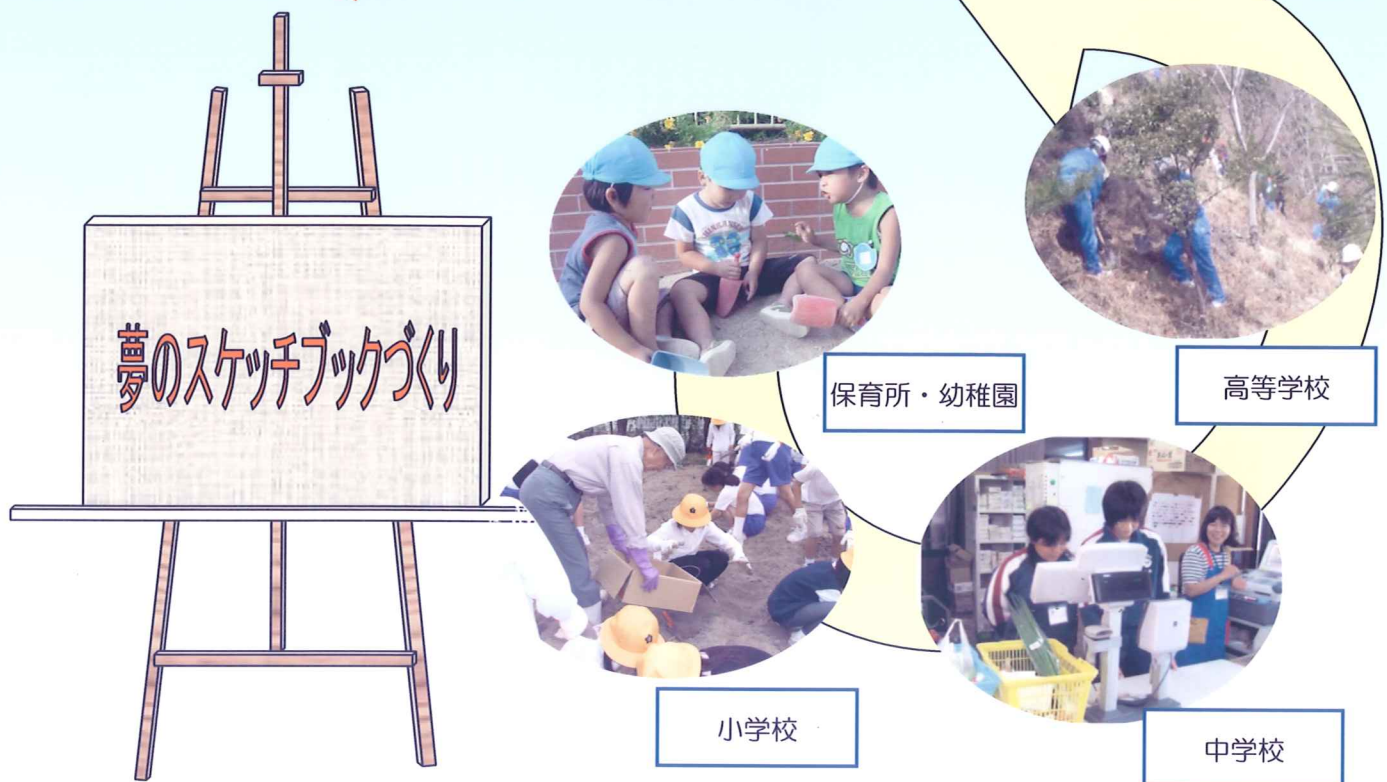


# 輝く大人をめざして



## 広島型のキャリア教育を求めて



小原友行委員長  
広島大学大学院  
教育学研究科教授

最近よく耳にするキャリア教育とは何でしょうか。広島県教育委員会によって作成されたパンフレット「キャリア教育の推進」によれば、「幼児児童生徒一人一人がその発達課題の達成を通して、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付けることをねらいとして行われる教育活動の総体」と定義されています。このような定義からも読み取れますように、広島県におけるキャリア教育の大きな特色は、中学校、高等学校の「出口」での進路指導や職業教育ではなく、学校・家庭・地域・産業界の連携のもとで、「入り口」である幼児期から、発達段階に応じて子どもたち一人一人に夢をはぐくみ、なりたい自分を探しながら、自己の在り方生き方を考えていく、自己実現型の取組みをめざしていることです。このような広島型のキャリア教育は、「生涯輝く大人づくりをめざした教育」と言い換えることもできるのではないのでしょうか。

では、なぜ今、このようなキャリア教育が求められているのでしょうか。

その最大の理由は、「大人になりたくない」「大人になりきれない」子どもたちが増大してきていることです。子どもたちが大人になり、次の世代の親になるのは、今から10年後、そして20年後です。その頃の社会を考えると、子どもたちの経験や体験の不足とともに、コミュニケーション力や人間関係形成力、将来設計力や意思決定力といった、社会に参加しそれを形成していくための「生きる力」が十分育っていないことは、大変心配されることです。

しかし、それは子どもたちの責任ではなく、学校・家庭・地域の変化の中で、大人が子どもたちにそのような力をはぐくむ場を用意してこなかったということではないのでしょうか。いわゆる、家庭・地域の教育力の低下です。私たち大人は、幼児期からの発達過程において、育て残しをしてきたのではないのでしょうか。昔も今も、子どもたちの本質は変わらないはずで、今求められているのは、家庭や地域での子どもたちの生活の中に、学校での学習の中に、そのような「出会い、発見、感動」のある自己実現の場を取り戻すことです。子どもたちが「生きる意味」を考え、発見する時と場が必要ではないのでしょうか。

では、これからのキャリア教育をどのように進めていくことが必要となるのでしょうか。

私たちキャリア教育支援会議のメンバーは、「つながり」をキーワードに時間をかけて検討を行いました。その結果を、学校間、学校と家庭、学校と地域、学校と産業界が連携することによって生まれる教育力を活用することによって、子どもたちが生涯のテーマ（目標、夢、希望、そして志）を見つけるようになることを支援するための具体的な提言として、このリーフレットに書かせてもらいました。広島型のキャリア教育によって、未来を担う子どもたちが自分自身のキャンパスにどのような夢や志を描いてくれるのか、大いに期待したいと思います。

平成20年3月      キャリア教育支援会議  
委員長 小原 友行